



楽しむことが文化の要素の一つなら、それを地で行くラジオ体操の広がりもある。様々な「お国言葉」バージョンの登場だ。

きっかけの一つは、東日本大震災直後の2011年4月。外資系の医療広告会社に勤めていた西根英一さん(55)が、避難所でラジオ体操が行われていることを知り、東北弁のかけ声を使ったラジオ体操を提案した。石巻の新聞社やラジオ局などの協力を得て、「おらほのラジオ体操」として、同年夏に出来上がった。

動画投稿サイトなどを通じて大きな反響を呼び、今では各地で様々な方言を使ったラジオ体操が行われ、人々の笑顔を誘っている。

西根さんは、「方言で絆や心を温める効果も生まれた。だからこれだけ受け入れられたのでは」と分析する。青山理事長も言う。「ラジオ体操には、戦前の国民精神総動員に使われた時代もありました。でも皆が自由に楽しみ、身近に感じていただければ、それは文化なのだと思います」

全国各地に アレンジ版

方言版ラジオ体操は、個人が制作して動画サイトへ投稿したものから、自治体が作成したもの、レコード会社がCD化したものなど多岐にわたる。ラジオ体操は、1928年に旧通信省簡易保険局が制定した国民保健体操が起源。そのため、楽曲の著作権は「かんぼ生命」が持つ。同社に使用申請があった方言版だけでも24道府県に及んでいる。

「方言版」ラジオ体操の広がり

津軽弁(青森)

腕っこ めえ(前)から
上さあげで、でった
だぐ(大きく)、背伸
びの運動がら～

甲州弁(山梨)

手足をうーんとやっこ
く(柔らかく)、コピッと
(しっかり)、かかと曲げ
るだよ

三河弁(愛知)

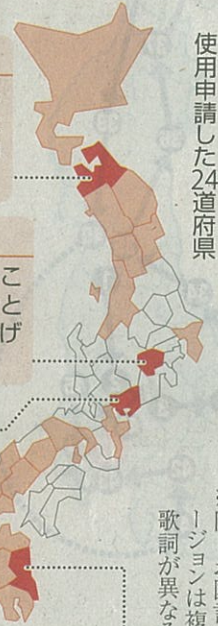
横曲げの運動
だぞん、
左横に曲げりん、
まゝ1回、
右に曲げりん

沖縄

ティーチ(1)、ターチ(2)、
ミーチ(3)、ユーチ(4)、イ
チチ(5)、ムーチ(6)、テー
ヒサ(手足)の運動

都城弁(宮崎)

ひじを伸ばせっ、せっぺ(たくさん)ぐー
っと、ふっとか(大きい)円をかくごっじゃ



●楽曲の著作権を持つ「かんぼ生命」に
使用申請した24道府県

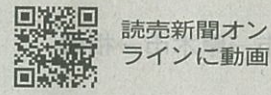
※同じお国言葉でもラジオ体操のバージョンは複数ある場合もあり、
歌詞が異なることもある

やってみよう! オッキグ 背伸びッコ～

「ヘンデば メーガラ 上サ アゲテ オ
ツキグ 背伸びッコ スッペシ」。東北
弁のかけ声に合わせてラジオ体操が始まっ
た。宮城県石巻市のカフェ「I R O R I 石
巻」では、平日のほぼ毎日、約20人が「お
らほのラジオ体操」を行う「写真」。

誰でも参加できるラジオ体操の動きを、
方言で楽しむ。地域交流の手段として
定着しており、障害者へのデイサービス
を行うNPO法人理事長の高橋博美さん(67)
も施設利用者を連れて参加す
る。高橋さんは「皆施設の外に出
て、(外部の人と)楽しくやりた
いと思っているんです」と、利用
者たちの笑顔に目を細める。

(音源は「おらほのラジオ体操
実行委員会」版)



読売新聞オン
ラインに動画